

声のかすれ『嗄声』

川口市立医療センター

耳鼻咽喉科

しょうだ

ゆうた



声がかすれる症状は、『嗄声』と呼ばれ、嗄声の原因には、①喉の炎症②腫瘍(できもの)③喉のまひ④加齢による影響など、さまざまなものがあります。嗄声はどの原因によるものかの診断は、鼻からファイバースコープを入れるファイバー検査やCT検査で行います。

①喉の炎症

発声するための器官である声帯に直接炎症が起こる場合や、風邪の後などに起こる副鼻腔炎が原因で炎症が起こる場合があります。また、歌い過ぎなど大声を出した後にも起こる場合があります。治療としては、発声を控えるなど、喉を安静にすることや内服治療を行うことで改善が見込めます。

②腫瘍(できもの)

炎症に伴い、良性のポリープや悪性のがんができることがあります。治療としては、全身麻酔による手術や、がんが疑われる場合は検査を行い、必要に応じて関連施設を紹介しています。

③喉のまひ

喉の動きを担う神経の通り道に「できもの」などができることにより起こりやすくなり、甲状腺や肺、食道といったさまざまな器官の疾患に関連して起こる可能性があります。これらの診断にはCT検査が必要になります。症状によっては手術となる場合があり、必要に応じて関連施設を紹介しています。

④加齢による影響

高齢のかたに多いものとしては、声帯の萎縮(やせ細り)が挙げられ、声を日常的に使わないことや、入院での体重低下などが主な原因となります。症状によっては手術となる場合があり、必要に応じて関連施設を紹介しています。嗄声でお困りのかたは、まずはかかりつけ医にご相談いただき、必要に応じて当院耳鼻咽喉科を受診してください。

きゅぼらんの健康のコツ！がん検診を受けよう！

今は2人に1人ががんになる時代

がん検診に行ったことはあるきゅぼ？
毎年がん検診に行って自分の健康チェック
をすることが大切きゅぼ！



健康チェック、気にしていなかったわ。
がん検診、今年は行ってみようかしら。

そうきゅぼ！

10月は「がん検診を受けようキャンペーン月間」きゅぼ！
がんの早期発見・早期治療につなげて、がんで亡くなる
人が少ない世の中になりたいきゅぼ！



そうなのね、家族や友人にも勧めるわ。
気付いた今こそ病院を予約しよう！

がん検診の
詳細はこちら！
がん検診の
お知らせ▶



検 診	対象者	主な検査内容	検 診	対象者	主な検査内容
胃がん 内視鏡	50歳以上の男女 ※前年度未受診者のみ	内視鏡検査	子宮頸 がん	20歳以上の女性	内診・細胞診
大腸がん	40歳以上の男女	便潜血検査	乳がん	40歳以上の女性 ※前年度未受診者のみ	視触診・ マンモグラフィ
肺がん・結核	40歳以上の男女	レントゲン 検査	前立腺 がん	今年度50歳、55歳、 60歳、65歳、70歳、 75歳の男性	血液検査

※12～2月は医療機関が混雑し、予約が取りづらくなります。

がん検診の詳細は、健康増進課までお問い合わせください。

健康増進課 ☎048-256-1135 FAX048-256-2023

川口市の

官民連携地域情報
ウェブサイト

トコカワグチとは

行政の情報だけでなく、地域やお店の情報など、さまざまな川口の情報が集まる川口市公式の地域情報ウェブサイトです。

イベント情報も
チェック



川口市広報課 職員による

ちょっぴりきゅぼ！ 市政情報番組

85.6 MHz City Information
FM Kawaguchiで放送中
放送日：平日の10分間…10:00、13:50、17:50、20:00

LINE 川口市 公式アカウント
LINE ID @kawaguchi.city

暮らしに役立つ ぜひご利用ください
きらり川口情報メール



自分の描く道で目標に向かって
2024年
世界大学オリエンテERING
選手権 日本代表
柴崎 愛有さん

専用の地図とコンパスを駆使し、市街地や公園、森の中などに設置されたチェックポイントを通してゴールするまでの時間を競うアウトドアスポーツ、「オリエンテERING」。脚力はもちろん、スタート後に初めて見る地図を読み解く力、走りながら瞬時にルート構築する判断力などの技術も求められる競技だ。速さを求め、時には険しい道を突き進むゴールを目指す。山形県で生まれ育ち、高校時代は陸上部の中距離選手だった柴崎さん。県大会を勝ち抜き東北大会出場という目標を達成できた。新潟県の大学に進学後、「何か新しいことにチャレンジしたい」という思いが湧き上がった。1年生のときにSNSでオリエンテERING部を見つけたのがこの競技との出会いだ。授業の合間に練習をしたり、土日は県外へ遠征して大会に出場する。山形県で生まれ育ち、高校時代は陸上部の中距離選手だった柴崎さん。県大会を勝ち抜き東北大会出場という目標を達成できた。新潟県の大学に進学後、「何か新しいことにチャレンジしたい」という思いが湧き上がった。1年生のときにSNSでオリエンテERING部を見つけたのがこの競技との出会いだ。授業の合間に練習をしたり、土日は県外へ遠征して大会に出場する。山形県で生まれ育ち、高校時代は陸上部の中距離選手だった柴崎さん。県大会を勝ち抜き東北大会出場という目標を達成できた。新潟県の大学に進学後、「何か新しいことにチャレンジしたい」という思いが湧き上がった。1年生のときにSNSでオリエンテERING部を見つけたのがこの競技との出会いだ。授業の合間に練習をしたり、土日は県外へ遠征して大会に出場する。

「就職しても競技を続けたい」と思っていた柴崎さんは、働きながら大会や合宿に参加できることや、スポーツに取り組んでいる先輩社員が在籍していることが決め手となった。川口市内の株式会社宮岡に今年就職した。会社からの応援も受けながら日々の練習は欠かさない。「平日は出勤前に10キロくらい走りますが、毎日続けることは厳しくて、夜も競技仲間と都内の運動施設に集まって練習しています」と、まだ慣れない仕事と競技の両立に苦戦している。それでも、「ペース配分や必要な情報だけを拾う技術は、社会人になってから特に成長を感じています」と語る柴崎さん。

